様式(細則 5-2)

令和　元 年　11 月　14 日

浜田市議会議長　　川神　裕司　　様

議員名　　柳楽　真智子　　㊞

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので、その結果を報告します。

記

1、期　間　　令和　元 年　10 月　31 日　（木）

2、視察先

益田市立豊川小学校

3、視察内容

コミュニティスクールの取組について

4、調査経費　　858 円　　（　ガソリン代　）

5、調査活動の概要

別紙に記載

浜田市議会 受付 1.11.14

益田市立豊川小学校のコミュニティスクールについて

○　豊川地区では人口が減少する中で、地域全体で子どもを育てようとの考えから、平成24年に「豊川地区つろうて子育て推進協議会」を設立し、月1回程度は会議を行っている。この協議会は、公民館、連合自治会、民生児童委員、青少年育成市民会議、保育園、放課後児童クラブ、小学校、中学校、PTAなどで構成されており、この会がコミュニティスクールのキーポイントとなっている。それぞれの団体の役員があて職ではなく、主体的に活動している団体だから機能している。

○　学校、公民館、保育園が隣接していることも好条件だと思う。

○　つろうて子育て推進協議会と学校運営委員会が上手く連携できていることも成功の要因である。

○　平成28年から社会教育コーディネーターを配置。臨時職員やパートではなく、個人事業主として契約をしている。小学校の職員室に机が設けられていることによって、学校や子どもの様子が把握でき、コミュニケーションが取りやすい。コーディネーターが学校にいることで、教職員も無理なく様々な取組みができる。

○　中学生は公民館で活動することを基本としていることから、学校の帰りには公民館に立ち寄っている。地域と中高生を関わらせることにより、地域を思う心を育てることに繋がる。

○　小学校の中に交流スペースが設けられており、壁紙貼りやテーブル、椅子の作成にも子どもたちが関わっている。地域の人と一緒に活動し、自分たちも地域の一員だと実感できることが大事である。

○　教育は将来、地域を担う人材を作るための投資である。

○　益田市は小学校は残すという方向性を出し、今後、学校管理を地域にやってもらう予定である。

○　この取組により、豊川地区に移住したいという人も増えているが、借りられる空き家などが少なくて断念する人もいる。ＵＩターンにつながる取組だと考える。

○　公民館の役割は大きく、地域と子どもたちをつないでいる。

○　ふるさと教育では地域を好きにはなるが、地元に残ろうということにはなっていない。地域で体験したことの喜びや、必要とされていると感じることが大切である。

○　コーディネーターがいなくなっても、持続できるようにすることが大事。

所　感

　この視察で一番感じたことは、地域・学校・コーディネーター、この取組に携わっておられる教育委員会の職員など、皆さんの地域や子どもを守りたい、育てたいとの熱い思いでした。この取組で大切なことは、それぞれの立場において、それぞれが主体者となって考え、行動することだと考えます。豊川地区での取組みがどこの地域でも成功するとは限りませんが、地域ぐるみで子どもを育てるとの考え方は、これからの地域づくり、まちづくりに必要な観点だと感じました。
未来の人材を育てるのは、教育しかないとの言葉の中に秘められた、重みや奥深さを大切に今後の在り方を考えていきたいと思います。